

ヘルスケア分野の技術革新

写真:AFP/アフロ

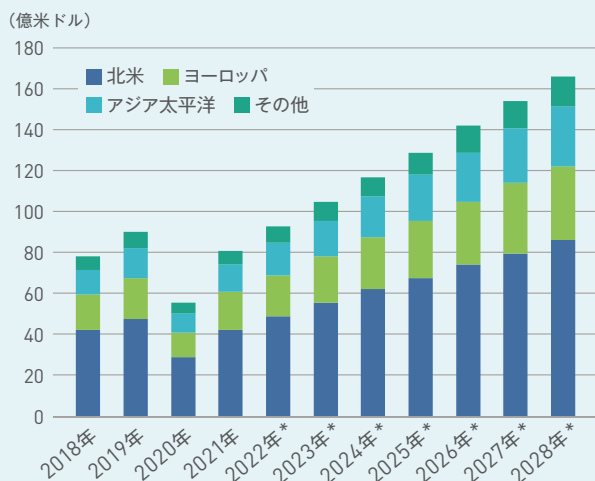


写真左側のサージョンコンソールから右側の機器を操作する、手術支援ロボット「ダビンチ」。2000年、米インテュイティブサージカル社により上市されたダビンチは、今年7月には最新モデル「ダビンチ5」の日本販売が始まるなど、進化・拡大が続いている。ダビンチの導入実績は2025年3月末時点で71カ国、1万台以上。累計の手術件数は1,694万件に上る。

Summary

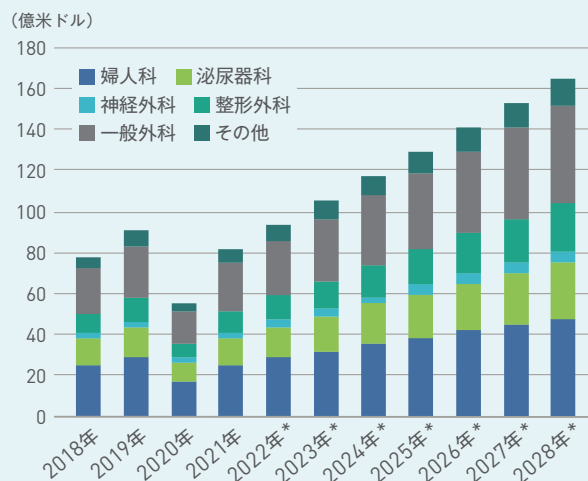
- 手術用ロボットの進化が低侵襲手術の実現など、医師と患者双方の負担軽減に貢献している。
- 北米を中心に普及が進み、ヨーロッパやアジア太平洋地域でも導入が増加している。
- 婦人科、泌尿器科など様々な領域で活躍しており、人の手では到達が難しい身体深部の切除や治療でも使われている。

■ 図表1 地域別の手術用ロボット市場の規模



*は予測 (出所)Inkwood ResearchよりStatista作成。Statistaより引用

■ 図表2 分野別の手術用ロボット市場の規模



*は予測 (出所)Inkwood ResearchよりStatista作成。Statistaより引用。